

釣れ釣れなるままに

1998年思い出の釣行記 PART. 1

岩見沢釣遊会 35周年記念大会

鹿島釣狂



岩見沢釣遊会 35周年記念大会

開催日 平成10年6月21日

開催場所 歌別川～岬港

入釣場所 東歌別

潮 満潮 23:33 133cm

干潮 06:58 38cm

釣果 アブラコ 406 mm

カジカ 354 mm

重量 386 0g

点数 1146 点

成績 5 位

ベストと帽子

昨年の11月の例会からほぼ半年ぶりの参加になる。今回は35周年という記念すべき大会であるので何としても出席したいと考えていた。しかし仕事の関係から出席できるか否かは申し込み締め切りの2日前にやっと決定することができた。数日前から事務局長の大前氏から参加の確認を督促されていたが延び延びになって大変ご迷惑をかけた。

35周年の記念に氏名入りのベストが会から各人に贈られるという。背中に鹿島釣狂とのペンネームを入れようかどうか迷ったが実名で入れてもらうことにした。戴いたベストは紺色の下地に白い刺繍で名前が入っている。会の名前が入っているので責任も伴う。釣果が上がった時など大いに会の宣伝になるが、貧果の時は会の名前を汚さないようにベストの上に何か着込むことにしよう。

30周年の時、やはり、会から戴いた帽子は、私の頭が大きくてサイズが合わなく、他の帽子をかぶって参加している。会では誰もがかぶれるようにとフリーサイズを用意してくれているのだが、私のでかい頭にはフリーにしても頭に乗っかっている程度で少しの風で吹き飛んでしまいそうである。紐をかければいいのだがそれが煩わしい。大会の案内には会の帽子をかぶって参加の要請があるもののそんな理由から私だけがかぶらないでの参加である。

会の皆さんにはこの点でも迷惑をかけている。「わがままな奴だ」と思われているに違いない。「でもどうしてかぶってこない。この次から必ずかぶって来い。」とは言われたい。寛大な心からというのではなく、「こいつに言っても、言うことを聞きそうもないな」とあきらめているのだろう。それをいいことに、いつも、自分愛用の帽子をかぶって行く。これは、頭から耳にかけて、しかも首をもすっぽりとかぶるものである。冬のワカサギやカンカイ釣りのときはいいものの、夏の暑い時はいつも頭が蒸れている。それでもいつも同じ格好なので変人と思われても仕方がない。

夢よもう一度

釣り人は、一度、大釣りすると「夢よもう一度」とその場を選んでしまうものらしい。「北海道の釣り」を拝見していても、ここは〇〇氏の場所、そこは◎◎氏の岩、あそこは☆☆氏のテトラ（そんなものが実際にあるのかどうか）という好みの場所が設定されているのがわかる。釣遊会のメンバーの中にも自分の乗る岩をもっている者が何人かいる。もちろんその岩を個人の占有にしているわけではないが・・・。

今回の入釣場所は、東歌別と決めている。今回の状況は私にしては珍しく大釣りをし、1426点を出した時と大変似通っている。時期、潮、天候、波、etc・・・。私でなくともここを選んでいるはずである。しかもどこの情報なのか分からないが東歌別で下りる会員がたくさんいる。きっとさまざまな状況から見て今回は東歌別と決めて来たのだろう。一人で自由に釣り場を独占できる魅力もたまらないが、たくさんいるとそれはそれなりに期待がもてる。

嫁さんも、婿さんも

例の舟上げ場で荷物を下ろすと先客がいる。声をかけると何度か釣遊会の大会に臨時で参加していただいている方である。今大会は記念大会であり、臨時の方はお断り申し上げていた事もあり、個人でこの遠い海原までやって来たとのことである。若い方だが釣りに対する探求心旺盛で入会すると入賞の常連になることだろう。

早速、暗い海に向かってドボンと打ち込む。しかし上がってくるのはハゴトコのみである。干潮は6:58なので現在は水没している沖の岩に上がるまでには時間がある。5時頃、最終的にこの前の岩に上がることにして、それまでは左の岩を目指して前進することにする。

小さな湾洞になったところに打ち込む。ガタガタと竿を撞らして35cm程のカジカが上がった。続けて40cm程のアブラコが上がる。正面によい昆布根があり、そこに打ち込むが沖から寄せてくる波が高く、そのたびに昆布に格まった道糸が大きく引き寄せられ竿が落ち着かない。しかも何度も根がかりをして仕掛けを取られた。

目指す岩は

アタリもまばらになり舟上げ場前の岩に向かう。時間的にも潮がひいて渡れるようになっているだろう。しかし、そこにはもう早、本会の会員が入っていた。まだまだ潮が引けていないところを見ると彼は胸ぐらいを漕いで渡ったに違いない。その岩は一人が限度なのであきらめざるを得ない。ウーム残念。彼はその岩で本日の準優勝を果たした。

もとの位置に戻る。湾洞を挟んで見るからに良さそうな離れ岩があるが、間の溝が深そうなので私にはその岩に乗ることは無理であると判断し、相も変わらず同じところに打ち込んでいた。すると、また、他の会員がその岩目指して前進して行くではないか。腹ぐらいまで浸かっているのだがジャバジャバといとも簡単に渡って行く。彼はそこから本日の

身長賞を獲得した49.0cmのアブラコを引き抜いた。

大会成績

今回の大会は、安曾和夫氏が1479点（アブ47.8+カジ37.7）の高得点で優勝を飾った。準優勝は佐々木忠義氏で1412点（アブ41.9+カジ42.8）。3位は佐々木秀美氏で1344点（アブ49.0+カジ32.0）であった。

上位入賞者は皆さん東歌別から出揃った。私は、1146点（アブ40.6+カジ35.4）で5位入賞となった。

表彰式では、記念大会であるので恒例のジンギスカンパーティーを開き、それぞれの健闘をたたえ合い、35年の歴史と伝統をかみしめ合った。帰りのバスではいつになくたくさんのお酒をいただき、ぐっすりと眠り落ちてしまった。次回の大漁を夢見ながら……。



